



新聞番會

身十七号

大阪北優実川延若道頓堀筑後芝居三鏡山
 岩藤の役どおさんとせー小堂丸うらんや病子
 三時強盗未つて枕辺ニ立ち金子渡走べくやと
 白刃どさし付る流石ハ立者の
 座頭株少も騒がげ空惚つて入
 その目又惚て出つと有合小遣
 六十余目と金銀をとりだめ
 時計貰入の類も残さん之を
 與へて聊憂る色あつと是常
 俠と氣を事と強勇大膽を
 真似し徳あらん々全快の上
 其事以作り入新狂言を
 發明せむ一志河の大入あらん
 と其金愈を祈るものぞ
 ありへ川の邊ろくもむ

都島遊人



恋
 あり
 あり
 あり

八尾